

令和5年度 市長とちょこっトーク（足尾地域） 会議結果(要旨)

日時	令和5年9月25日(月) 午後5時～午後6時30分
参加者	日光市長 足尾地域まちづくり協議会 10名
テーマ	私たちの地域を誰もがワクワクにするためにはどのようにしたらよいか
意見交換	<p>【課題1】 高齢化、人口減少により生活が不便になること。(地域内で衣食住の完結が出来ない状態。人口減とともに不自由な生活をしている。)</p> <p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日に市営バス6本(日光～足尾)、電車の乗り換え。社協の買い物支援事業「かもしか号」の運行は、月2回、12月は月3回。運転手は少なく人材不足、皇海荘から車を借りているため車が使えなくなることもある。 足尾地域まちづくり協議会『地域連携和楽の郷あしお』では、共助の理念を基本に、お互いを助け合うおたすけ券制度を始めようと少しずつ進んでいる。 ・衣食住が完結出来ない。買い物、通院など移動手段がない。移動販売は来ているが、町内のお店は閉まっているお店が多い状況。地域で解決できることを住民が洗い出しの出来るシステムを構築することが急務であり、何か出来ないかと考え「地域連携和楽の郷あしお」を立ち上げた。 <p>※おたすけ券制度・・・</p> <p>モニター10名に11枚1セット(1,000円)で販売し利活用する「おたすけ券」の使い勝手を検討している。市内のお店に協力をお願いしお手伝いする人が5,000円分集まったら、5,000円分買い物できる。以前足尾町で行っていたスタンプ券と同じで、発行から6ヶ月以内に使う。利用者、業者が潤い、住民が地域課題を解決できるシステムを目指している。</p> <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和楽の郷ではいつから運用を始めるのか。こういった活動・システムが運営されていけば、地域の課題の多くが、気持ち程度の謝礼による住民同士の助け合いでカバーできるようになる。事業実施に向けての応援をさせてもらう。

意見交換	<p>【課題2】 個人の孤立化を防ぎ、住民がともに支え合いながら元気に安心して暮らせる地域づくり</p> <p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足尾住民の高齢化率が高い。赤沢地域は80%で超高齢化。地域内のコミュニケーションを維持していくために、集会所は高齢者に頻繁に利用されている。集会所解体の費用は大きい。足尾町は行政が集会所を建て、壊すことは考えていなかった。譲渡を受けないで保険料など経費を自治会で負担し使わせてもらいたい。 ・上の平は高い位置にあり、お店も何もない所。2、3年前の大雨の時、避難場所ではないが集会所に避難した。そこから別な場所に移動ということもあった。集会所はお年寄りの運動、会合など行い、自治会にとっては重要な場所でワクワク感を味わえる場所にしたいと考えている。集会所を譲りうける方向で話し合いをしている。 ・地域が繋がりが支え合うのが理想。自治会を「年だから」と言って退くのではなく、先輩としてみんなと一緒にいけば出来るということを教える。向う3軒両隣、遠くの親戚より近くの他人で、同居の息子よりご近所が頼りになり、温かい目で見守り、リタイアするのではなく、一人ひとりが動けなくなるまで協力し合うことで解決するのではないかな。 ・市の施設を借り、こども食堂を始めた。子供が少ないこともあり、一人暮らしの男性の利用が多いので気になる。食生活が大事だと思っている。おばあちゃんのおまかせランチを500円で提供。常連も来るようになった。こども食堂であるのに、何れは中高年の食堂になってしまうのではと心配だが孤立化を防ぐことになるとは考えている。子供に会うと元気をもらいワクワクする。学校行事に地域のお年寄りを積極的に参加させることも効果があると思う。 ・集まって昔話出来る場所。敬老会を地域でやっているが年々参加者が減っている。ラジオ体操、ポッチャ、カラオケなど、やれる人・やれない人、いろいろな人がいると思う。肝心なのは足尾地域の全員が声を掛け合う町にしたい。 ・今後導入される使い勝手の良い小型化バスによって元気な高齢者が公民館事業に参加しやすくなれば孤立化を防ぎ、地域がもっと元気になる。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の皆さんと話し合いながら、集会所を最後までしっかり使っていただきたい。選択肢の中で相談しながら進めていきたい。食堂の取り組みに関しては、手作りが懐かしいということでしょうか。足尾地域も過疎化、高齢化が進んでいるが私が住んでいる大沢地区も高齢化が進んでいる。日光市全体でも大きな問題と認識している。生涯現役という言葉がある、年齢に関係なく頑張っていただき行政で出来ることは協力させてもらう。
意見交換	<p>【課題3】インフラの再編</p> <p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化で免許返納者が多い。市営バスで導入される小型化バスを1台は観光周遊型でかじか荘まで運行し、地元の上質の湯に高齢者に入ってもらい、幸福度を高め健康寿命に繋げる。地元でやさしいインフラを再編。 ・わたらせ茶屋のトイレ改装。女子用・男子用トイレは和式なので利用頻度が低い。男子トイレは水漏れで使用禁止。他のトイレ利用が多くなりそこも汚く早めに直してもらいたい。高齢者の散歩コース、テレビ番組でわたらせ渓谷鐵道対青学駅伝チームとの対決コースになっている通洞駅から足尾駅までのトコ道の舗装がデコボコなため直して欲しい。 ・市営バスの路線設定にしてもいろいろな制約があるものと思われるが、一般的なルートの設定では使い勝手が良くならない。規制の中で最善を尽くしワクワクして活用できるような路線にしたい。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バスについては、かじか荘まで観光客も地元の人でも利用でき、停留所を増設など、地域の状況に応じたルートの設定など、整合性を図りながら考えていきたい。循環バスはそのほかに色々なことに関わってくる。インフラの大きなポイントで起爆剤になる。銅山観光リニューアル、トイレの改修等、バリアフリー対応の施設に変えていながら、地域の活性化を考えていきたい。 ・トイレは順次直す。水道工事の復旧も計画的に実施していく。舗装部分については沈んでいくので時間を置いて様子を見ています。 ・新型バス導入に際し、人にやさしいルートになるよう努める。足の問題は切実で地理的な問題もあるが、私の母も免許返納したが、間近で見ているので大変なことはわかる。困っている人には声掛けが必要だと思う。

意見交換	<p>【課題4】 地域の活性化と産業の創出</p> <p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人の働く場所、住む場所がない。足尾地域に人がいないなかで若い人が事業を始めるのは考えてしまう。継続できる事業として環境関連事業があると思う。若い人が生活出来る基盤を考えていかなければならない。足尾に緑を育てる会では新たに植樹する場所が少なくなってきて枯れたら土に戻した植える土壌再生に取り組んでいる。まだまだわからない問題があり、森林学など専門分野からの研究・説明も必要で、足尾ならではの誘致ができるのではないかな。 ・中才の鉱山住宅を活用。市営になっているが住んで残すということを基本に、前金制にして住宅を貸し出すことで観光利用してはどうか。 ・小中学校が併設となり、旧中学校が空いている。居住部屋・調理室・音楽室などもあり何か利用はできないか。 ・銅やまなみ館を閉鎖しているが、足尾に関する美術品、写真の収納に出来ると良い。観光客が足尾に滞在する時間が長くなれば活性化につながる。 ・通洞駅前のかんもサロンのお客様には、皇海山など山を目指す方多い。登山道の見直しで観光振興につなげてはどうか。また足尾の風景を気に入り、継続して通われている画家の方がいて、作品を寄贈したいと言われている。鑑賞できる場所があると良い。 ・足尾地域は平たん地が少なく、坂の多い狭い道ばかりで高齢者にとって生活していくには難しい。いきなりスマートシティというのは難しく、「地域連携和楽の郷あしお」のコンセプトにもなっている支え合うことで、わくわくした生活ができるモデル地区としたい。そのためには自治会の統廃合などで、土地が空き有効に活用できるようになると良い。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗を利用したイベント、美術展示など、以前の足尾町の生業や生活、ノスタルジックな感じを表した「わたらせアートプロジェクト」の活動が面白かったので気になっていたところである。 ・松木地区は広大な所でまだ植樹をする場所はあると思っていた。森林関係は認識不足で大学との協定、林業の関係者に伺っていききたい。植林に大勢来ていることは承知している。環境、学習、SDGs等を起点とする観光振興は重要と考える。 ・銅やまなみ館は、土砂災害警戒区域になっているため、その活用は難しい。 ・各地域、交流を促進することで相互安心から支え合う相互扶助、そこから、住みやすい地域に繋がり、モデル地域を整備し、人が集い、ワクワクした生活が期待でき相互満足度が増加し、スマートシティにつながる。 ・旧中学校を設備して活かすことも課題であり、重要な拠点になるのではないかな。 ・目標を立てることは重要。理想の形、スマートシティを足尾地域内で作る事が大切である。 ・足尾地域の活性化、少子高齢化の課題は日本全体の課題でもある。ワクワクドキドキ、和楽の郷あしおを立ち上げておたすけ券の活用がすすむと心強い。相互扶助、共存の部分で助け合う。地域振興に取り組む意見の中からキーワードが出て来た。古河記念館ができあがると大きなキーポイントになる。環境、観光、歴史、産業遺産を生かせるのが足尾地域、大きなチャンス。産業活性化することにより人を呼びこむ。学生にフィールドワークとして使ってもらおう。機を逃さないよう足尾地域の振興のため取組んでいきたい。
その他	<p>【その他】</p> <p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・向原地区は、高齢者が多く、イベントが出来ない。自治会総会の役員以外の出席者はほとんど無い。自治会で活動することを嫌がる傾向がある。それでいいのかわくわくしない。部屋から出たくない高齢者が多い。中学校の建物どうにかして欲しい。人口を増やして欲しい。 ・気温が下がってきたのでヤマビルが少なくなる希望を持っている。オオミスジコウガイビルがナメクジ、ミミズを食べるのでヤマビルも食べるかも。県で試験的にやっているが市も何かできないかと思っている。 ・受け身の対策ではなく地域振興でも産業遺産を活用したい。ヤマビルの問題も人が山に入らないからヒルが増える。山を生かしていく活用の取り組み。地域をどんな風にしたら良いか、みんなで知恵を出していく。理想論で申し訳ないが生きがいづくりに行政の皆さんの知恵を借り、出来ればいいと思っている。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植林の際、小学生から大人まで広く参加されている。山歩き目的の人も多く、山が活用され、自然と共存している。ヒル、野生動物の問題は足尾地域だけではなく市全体の問題。遊歩道があっても歩けないのはもったいない。ヒルは手ごわいが県で試験的に対策を行っている。推移を見ながら検討し、取り組んでいきたい。